



上溝公民館  
創立75周年

## 地域の皆さんに支えられ 創立75周年を迎えることができました。



### 創立75周年を迎えて

上溝公民館創立75周年記念事業実行委員長  
上溝公民館 館長 根岸 利昌

上溝公民館は、今年度創立75周年を迎えることができました。この間、諸先輩には、公民館の建設、運営、事業の実施等にご尽力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昭和21年7月に文部次官通牒「公民館の建設運営について」が発せられ、新しい郷土を再建させるための拠点として、公民館が推奨されました。昭和24年6月に公民館を規定した社会教育法が制定されたことにより、公民館建設委員会が町に陳情し、町条例制定により、昭和24年10月12日、上溝公民館として設置されました。

当時は、青年団活動が活発で、当時本町地区にありました新興会館を拠点に、地域を元気なまちに変えていこうと、住民とともに活発な活動を展開していきました。町民運動会、成人祭、町民のつどい、弁論大会、時局講演会、生活改善講座、青年教室、婦人の地位の向上座談会、議会報告など、先輩の方々の足跡が鮮やかに蘇ります。

創立25年・50年の記念誌を拝見しますと、創意工夫を凝らした住民主体の事業が、今なお継続されているものが数多くあり、色褪せることなく輝いています。

平成の時代になりますと14年以降、公民館を取り巻く状況は、市の行政財政改革の一環として、公民館使用の有料化、職員の正規職員から任期付短時間勤務職員への切り替え、事業予算の削減、常勤職員としては館長代理1人体制、地方公務員法の改正により館長職の権限の見直しなどの様々な変化が生じています。

また、コロナ禍の影響で、令和2年から5年にかけて、公民館の一時閉館などの影響もあり、公民館活動の活性化が課題となっております。

これからの上溝公民館は、100年目に向けて、次世代を担う子どもたちや若者も公民館につどい、活気づく公民館を目指して皆様とともに社会教育、生涯学習の原点を見つめ直し、公民館振興計画を踏まえながら、力強く歩み続けていきたいと思ひます。

※今回の特別号は、上溝公民館創立75周年記念事業実行委員会作業部会が編集しています。

# 地域の皆さまに愛され75年♡

バラエティーに富んだ数々の事業を紹介します！

## 学級



子育てセミナー：1999年（H11）～



女性学級：1965年（S40）～



高齢者学級：1973年（S48）～

## 発表・展示会



上溝夏まつり文化展  
1951年（S26）～



上溝公民館まつり：1958年（S33）～



## 大会



せーの！



選手宣誓！



コロコロ



パワッ！

上溝レクリエーション大会・ふるさとまつり：1996年（H8）～  
コロナ後に運動会方式から体験会方式に変更されました！



体験型でも自治会対抗要素を残しています！



ビーチボール大会



ファミリーバドミントン大会  
2017年（H29）～



グラウンド・ゴルフ大会：1994年（H6）～



ソフトボール大会  
1975年（S50）～



バレーボール大会  
1972年（S47）～

## つどい



健康まつり：1981年（S56）～



従来のウォーキングから体操などの体験型に！



ハイキング

1980年（S55）～



みぞっ子ランド  
2009年（H21）～



春のウォーキング



七夕飾りづくりのつどい  
1994年（H6）～



クリスマスのつどい  
1983年（S58）～



ファミリー音楽会  
1991年（H3）～

## 公民館の今昔



会館の取り壊しの日



市内初の独立公民館



現在の公民館

昭和24年10月12日に上溝新興会館を公民館活動の拠点（上左）として活動開始、昭和44年4月に鉄筋コンクリート2階建て公民館（上右）が、平成3年11月に現在の公民館となる。

## 講座・その他



防災講座



防災講座  
段ボールベッド作り



歴史ウォーキング



コーヒーセミナー



歴史講座



子どもスポーツ体験



男の料理教室



環境講座 省エネ学習



そば打ち講習会



文学講座



園芸講座



健康講座 落語会

# 上溝公民館創立75周年記念講演会

令和6年12月7日(土)

メインテーマ 公民館の誕生から今日まで、そして未来へ

サブテーマ ～公民館は何のために存在しているのか?～

講師 白石 卓之氏

相模原市教育委員

相模原市南区在住、昭和63年、相模原市役所入庁、令和元年退職、在職31年半の内16年半は社会教育に従事。令和2年から現職、現在2期目です。

## 公民館の誕生：公民館の歴史や役割を振り返る

公民館の生みの親は、文部省公民教育課長寺中作雄氏です。昭和21年7月5日文部省が公民館設置運営要綱(通称「寺中構想」)を通達。寺中作雄氏著「公民館の建設―新しい町村の文化施設」の中で公民館の機能を、「公民館は社会教育、社交娯楽、自治振興、産業振興、青年養成の目的を統合する地域の中核機関である」と言っています。

最近、あの池上彰さんが令和元年の全国公民館大会で「民主主義と公民館運動」のテーマで基調講演をされています。今日、その動画を視聴してください。全編はネットの「公民館チャンネル」で視聴出来ます。

## そもそも社会教育って何か、目差すものとは?

「社会教育の定義」は社会教育法



(昭和24年公布)の第二条に、「国及び地方公共団体の任務」は第三条に、「公民館の目的」は第二十条にあります。

## 公民館の今日：相模原市の公民館の現状と課題をさぐる

公民館は、全国に約14,000館弱あります。相模原市は32館(緑区12館、中央区10館、南区10館)。旧市で最初に上溝公民館と大沢公民館が昭和24年10月12日に設置されました。上溝公民館は昭和44年4月1日、市内最初の独立公民館として開館、平成3年11月1日に改築されています。

私たちにとっての社会的課題は、コロナ禍によるコミュニティ・つながりの分断、少子・高齢化と人口減少、不登校・いじめの増加、格差社会の進展、国際情勢の不安定化、超スマート社会への対応等があります。

公民館的課題として、コロナ禍による利用者の減少、事業のマンネリ化、専門部員の高齢化と新たな担い手不足、利用サークル減少と利用者の固定化、公民館運営協議会の活性化などが挙げられます。

国の動向として、第4期(令和5年～9年)教育振興基本計画が出されています。

## 公民館の未来：公民館の可能性を探る

公民館のキーワードは「つどう」「まなぶ」「つなぐ」。

公民館(社会教育)での学びのねらいは住民自治能力向上。

これからの公民館に(活動)に必要なもの、①居場所、コミュニティの復活、②自由な発想、公民館は動詞、公民館に枠(場所・時間・内容)をはめない。③持続可能な地域活動、公民館からコミュニティビジネスへ、経済にすることによって持続可能に。

## 事業を考える前に「機能」を考え、この地域公民館に必要な機能とは、

①公民館は何のために、何をやって、どういうゴールを目指しているのか。②関わっている人が同じ絵をイメージできているか、事業はゴールを目差す通過点、③そのプロセスに参画を呼びかける、新たな担い手の発掘に繋がる。

## 地域の各団体(自治連、社協、地域包括支援センター等)が連携し合って一つのゴールへ向かう。

イベント企画プロデューサーの永田宏和氏が、こんな指摘をしています。①土の人、一般的な地域住民②風の人、新たな刺激「種」を運ぶ人、③水の人、「種」に水をあげ続ける支援する人。

新たな参画者を生む2つのこと、①不完全なプランニング、関われる余地があり完成されていない。②楽しい、感動的、ワクワクする、非日常的(家で出来ない)。今あるもの(既存事業)を焼き直す、プロデュース、マッチング、コーディネートする人の重要性。

## 「公民館とは」これからの公民館をみんなで考えましょう。

### 公民館感謝状を贈呈

### 公民館感謝状について

上溝公民館創立75周年を記念し、公民館活動に10年以上活躍している方々の功労を讃えるため、感謝状を贈呈する規定を策定しました。今年度は、公民館まつりの開会式で9名の方々が受賞されます。

運営協議会 小林 充明  
館報編集部 皆川 由美子  
村口 弘明  
三秋 尚子  
文化部 阿川 伸子  
大山 幸一  
青少年部 森 繁之  
ボランティア 川崎 澄子